

令和7年度 認知症に関するアンケート調査結果

(認知症施策推進計画策定に向けたアンケート)

静岡県焼津市地域包括ケア推進課

令和7年12月

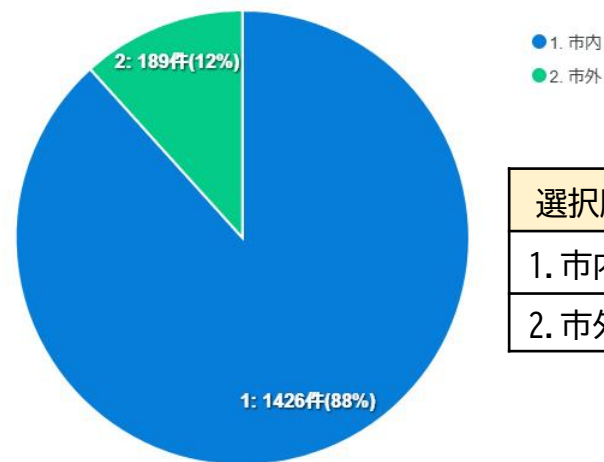


調査概要

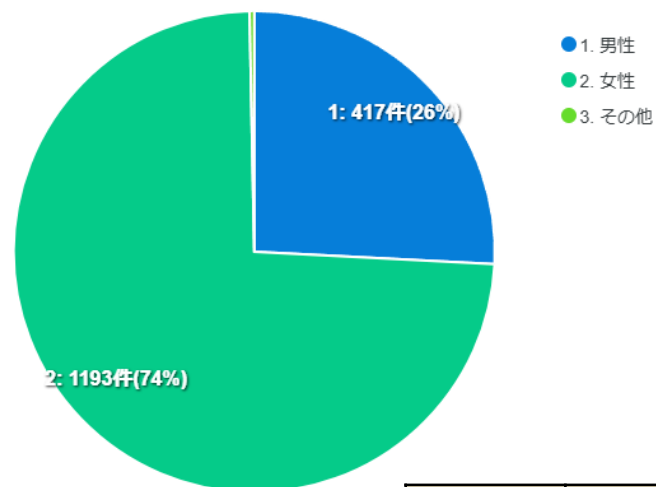
- 1 目的
市民の認知症に関する知識やイメージを把握し、「焼津市認知症施策推進計画」における「市民理解の進め方」等の施策の検討における基礎資料とする。
- 2 調査対象
主に焼津市在住で、中学生以上の認知症ではない方(市外の方の回答も可)
- 3 調査方法
①LINE配信によるロゴフォームでの回答を募る
LINE配信日:9月2日(火)
②イベント等の場においてロゴフォームでの回答呼びかけ
- 4 調査期間
令和7年9月1日(月)～9月30日(火) ※認知症月間に実施
- 5 回答数
1,615件
- 6 クロス集計
調査結果に対して、以下の5つの項目ごとにクロス集計を行い、特徴があったものを結果に記載
①「年齢(問2)」
②「性別(問3)」
③「認知症の人と接したことがあるか(問4)」
④「認知症について、どの程度理解しているか(問6)」
⑤「認知症サポーター養成講座を受講したことがあるか(問15)」

単純集計 問1、問2、問3

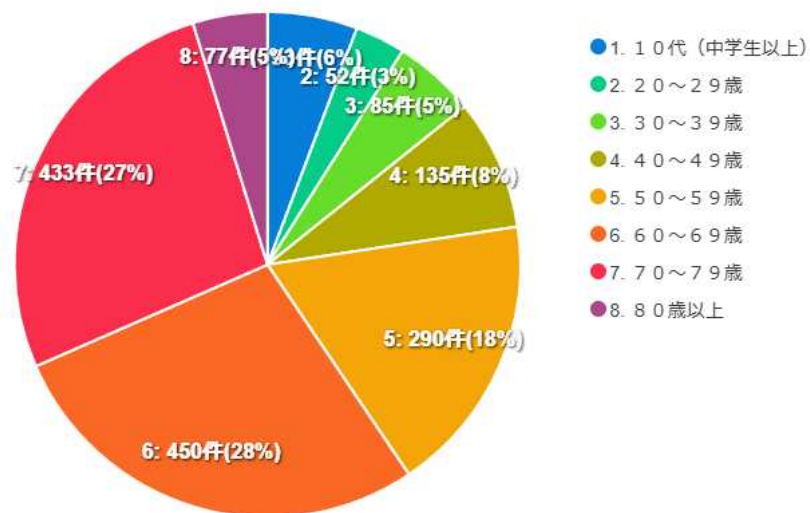
問1 居住地(n=1,615)



問3 性別(n=1,615)



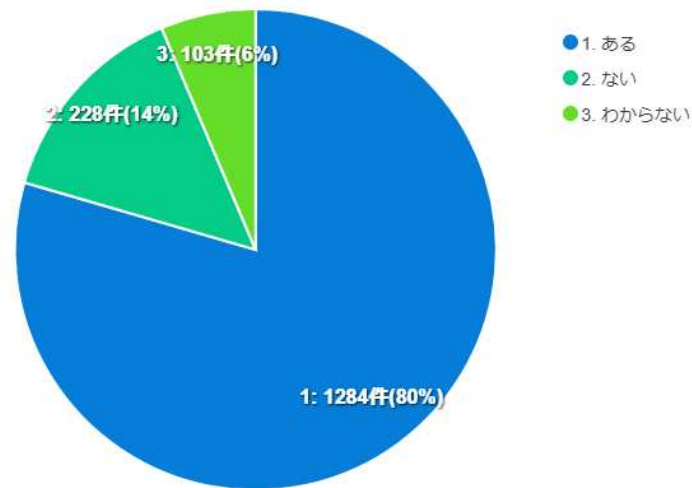
問2 年齢(n=1,615)



選択肢	回答数	割合
1. 10代	93件	6%
2. 20～29歳	52件	3%
3. 30～39歳	85件	5%
4. 40～49歳	135件	8%
5. 50～59歳	290件	18%
6. 60～69歳	450件	28%
7. 70～79歳	433件	27%
8. 80歳以上	77件	5%

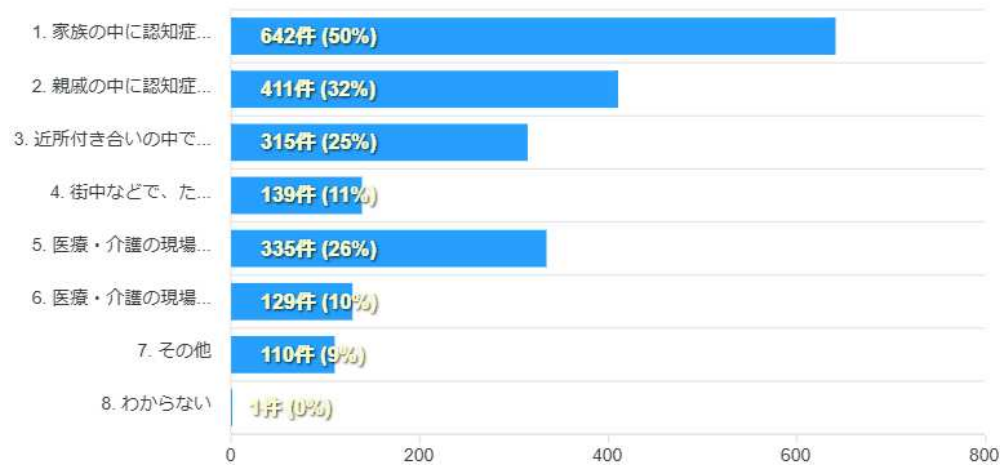
選択肢	回答数	割合
1. 男性	417件	26%
2. 女性	1,193件	74%
3. その他	5件	0%

問4 認知症の人と接したことがありますか。(n=1,615)



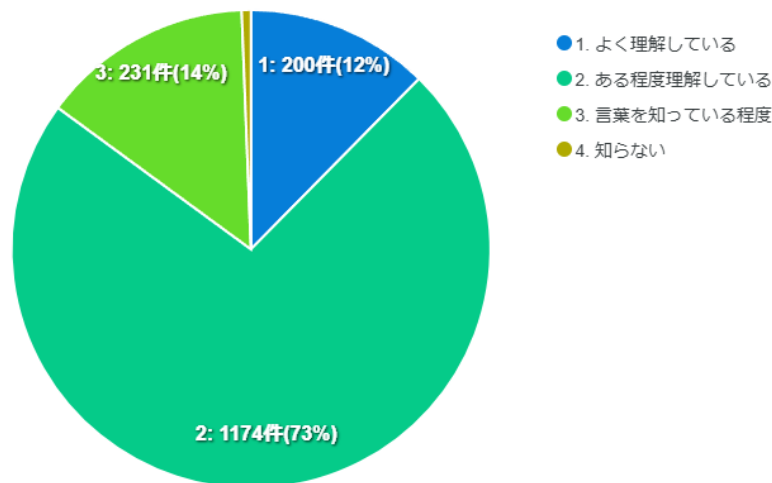
選択肢	回答数	割合
1. ある	1,284件	80%
2. ない	228件	14%
3. わからない	106件	6%

問5 どのような場面で認知症の人と接したことがありますか。(いくつでも)(n=1,284)



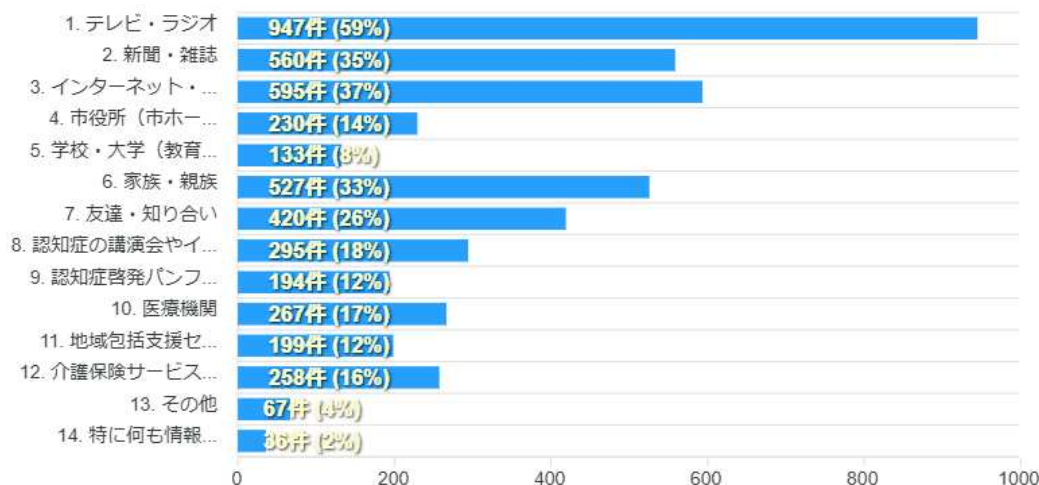
選択肢	回答数	割合
1. 家族の中に認知症の人がいる (いた)	642件	50%
2. 親戚の中に認知症の人がいる (いた)	411件	32%
3. 近所付き合いの中で、認知症の人と接している (したことがある)	315件	25%
4. 街中などで、たまたま認知症の人を見かけたことがある	139件	11%
5. 医療・介護の現場で働いている (いた) ため、認知症の人と接したことがある	335件	26%
6. 医療・介護の現場以外の仕事を通じて、認知症の人と接したことがある	129件	10%
7. その他	110件	9%
8. わからない	1件	0%

問6 「認知症」について、どの程度理解していますか。(n=1,615)



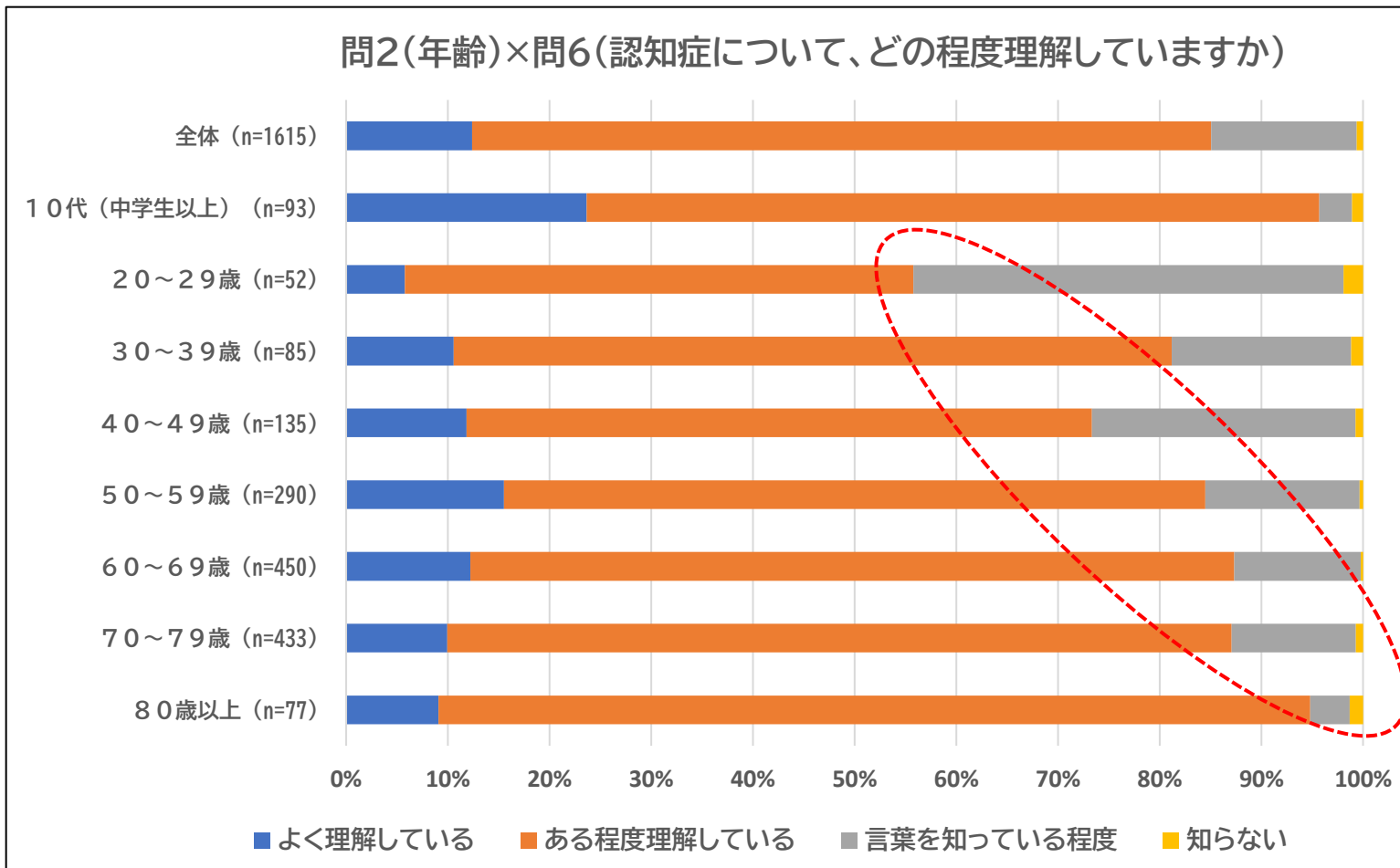
選択肢	回答数	割合
1. よく理解している	200件	12%
2. ある程度理解している	1,174件	73%
3. 言葉を知っている程度	231件	14%
4. 知らない	10件	1%

問7 認知症について、何から情報を得ていますか。(5つまで選択可)(n=1,605)

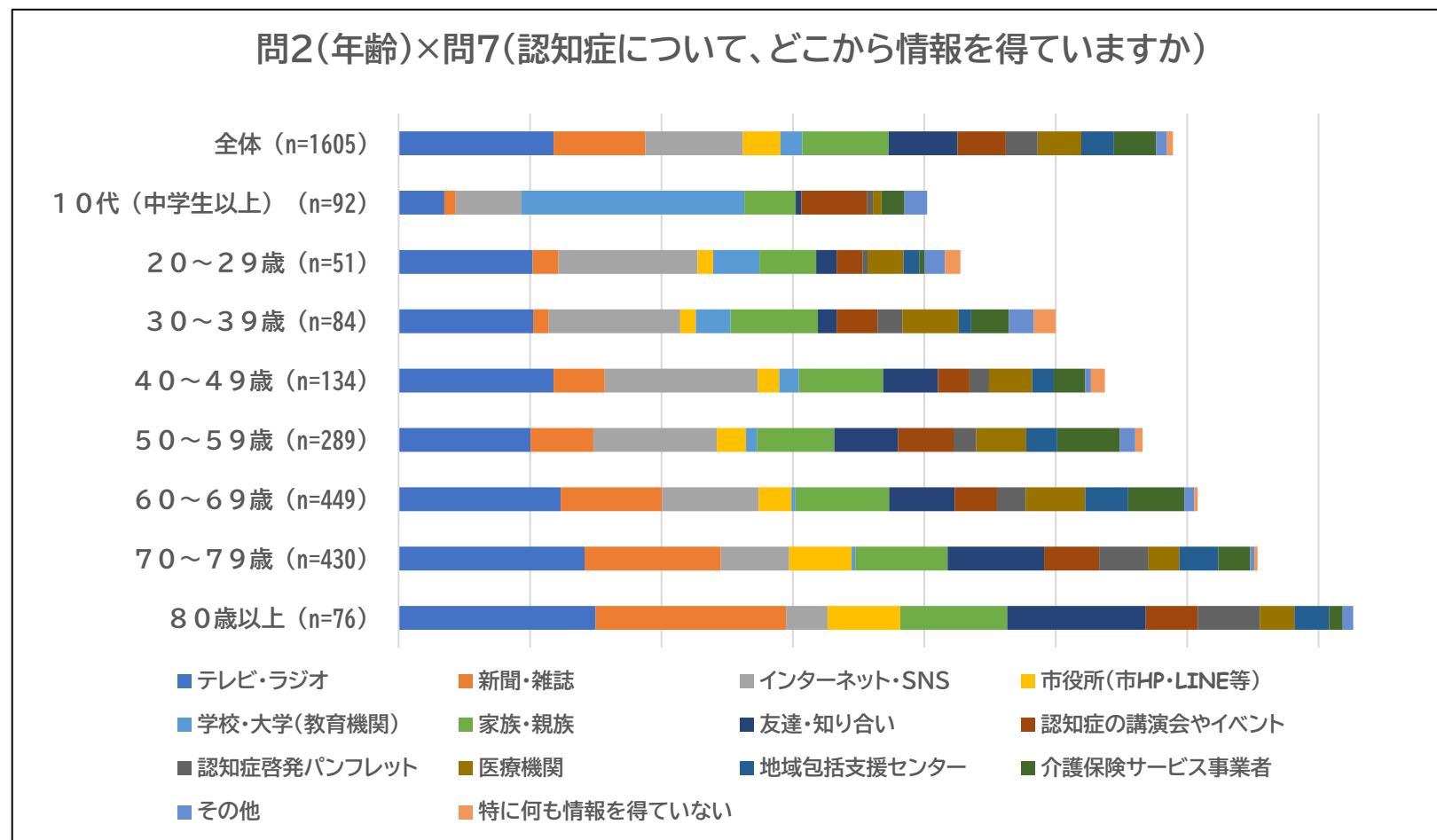


選択肢	回答数	割合
1. テレビ・ラジオ	947件	59%
2. 新聞・雑誌	560件	35%
3. インターネット・SNS	595件	37%
4. 市役所 (市ホームページ・LINEなど)	230件	14%
5. 学校・大学 (教育機関)	133件	8%
6. 家族・親戚	527件	33%
7. 友達・知り合い	420件	26%
8. 認知症の講演会やイベント	295件	18%
9. 認知症啓発パンフレット	194件	12%
10. 医療機関	267件	17%
11. 地域包括支援センター	199件	12%
12. 介護保険サービス事業者	258件	16%
13. その他	67件	4%
14. 特に何も情報を得ていない	36件	2%

クロス集計 問2（年齢）×問6（認知症理解度）

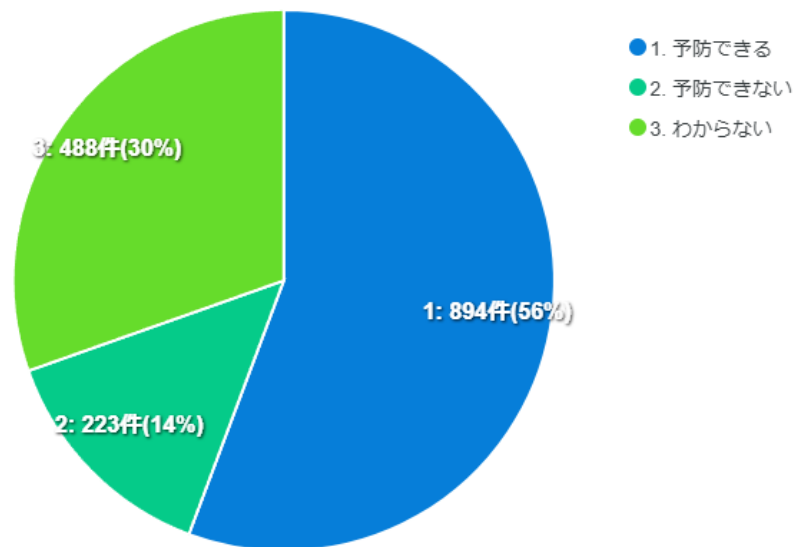


- 20代は、認知症について「■よく知っている」、「■ある程度理解している」の割合が低く、年齢が上がるにほどその割合が高くなっている。



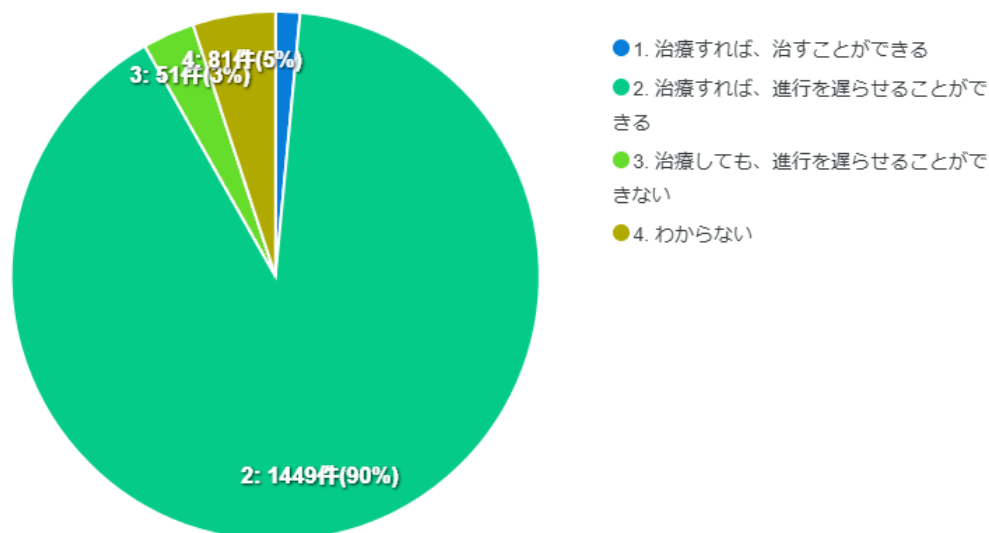
- 「■テレビ・ラジオ」から認知症についての情報を得ている人の割合が全体的に高い。
- 10代については、「■学校・大学」の割合が高い。
- 20代～50代は、「■インターネット」で情報を得ている人が多いが、60代以降は「■新聞・雑誌」から情報を得ている人が多い。

問8 認知症は予防できるものだと思いますか。(n=1,605)



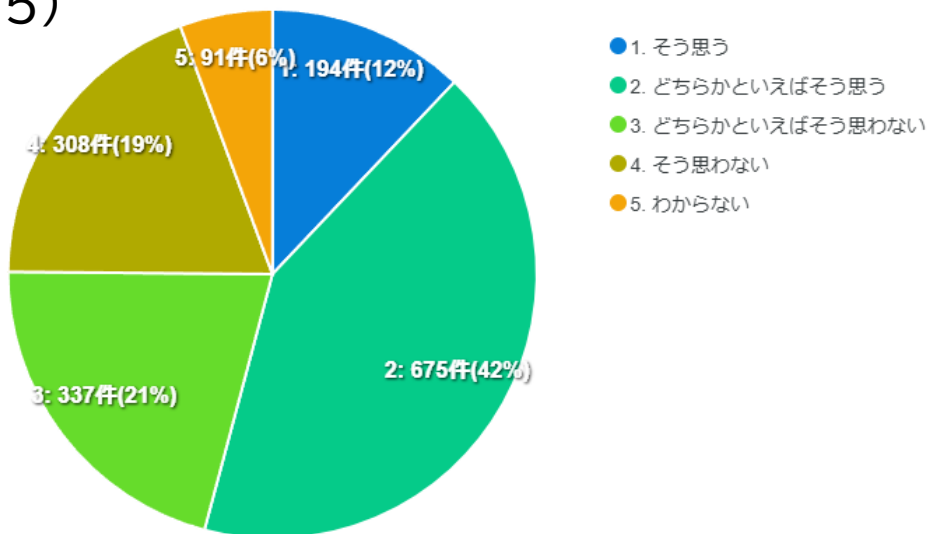
選択肢	回答数	割合
1. 予防できる	894件	56%
2. 予防できない	223件	14%
3. わからない	488件	30%

問9 認知症の治療に関してどのように思いますか。(n=1,605)



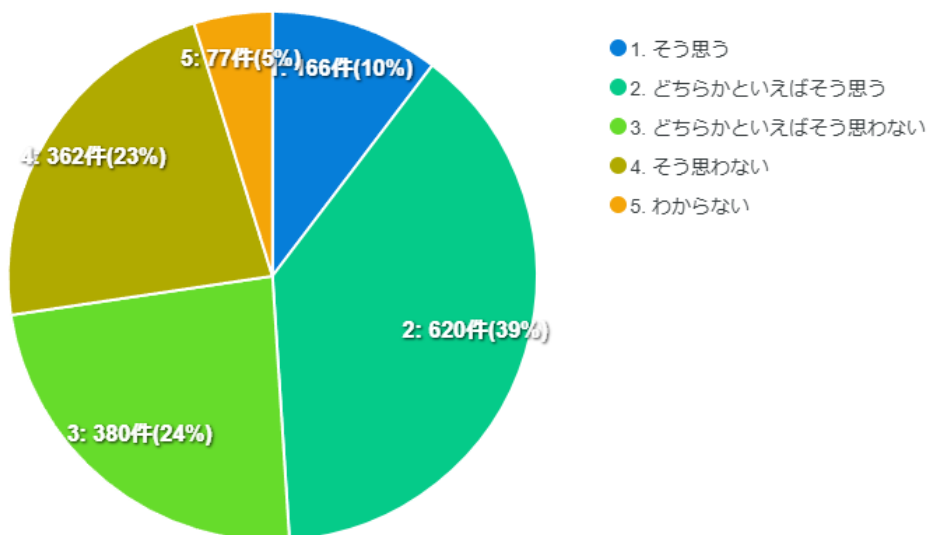
選択肢	回答数	割合
1. 治療すれば、治すことができる	24件	1%
2. 治療すれば、進行を遅らせることができる	1,449件	90%
3. 治療しても、進行を遅らせることができない	51件	3%
4. わからない	81件	5%

問10 認知症になったら、それまで好きだったこと(趣味など)を楽しめなくなるといいますか。
(n=1,605)



選択肢	回答数	割合
1. そう思う	194件	12%
2. どちらかといえばそう思う	675件	42%
3. どちらかといえばそう思わない	337件	21%
4. そう思わない	308件	19%
5. わからない	91件	6%

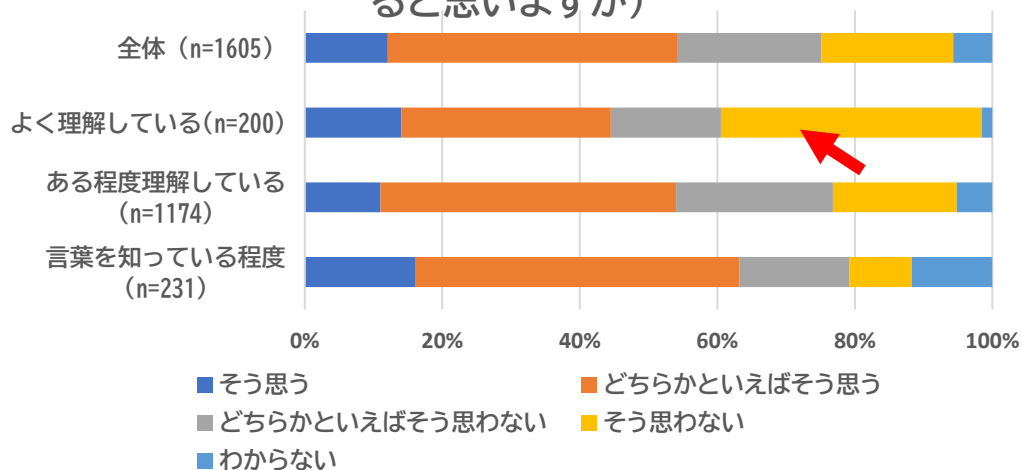
問11 認知症になったら、仲間や知り合いと交流できなくなるといいますか。(n=1,605)



選択肢	回答数	割合
1. そう思う	166件	10%
2. どちらかといえばそう思う	620件	39%
3. どちらかといえばそう思わない	380件	24%
4. そう思わない	362件	23%
5. わからない	77件	5%

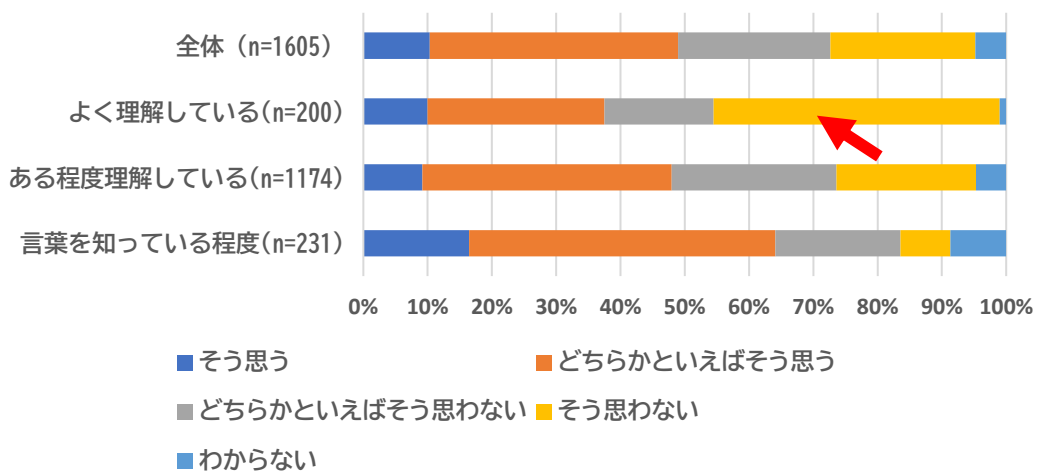
クロス集計 問6（認知症の理解度）×問10、11（認知症のイメージ）

問6（認知症の理解度）×問10（認知症になったら、
それまで好きだったこと（趣味など）を楽しめなくな
ると思いますか）



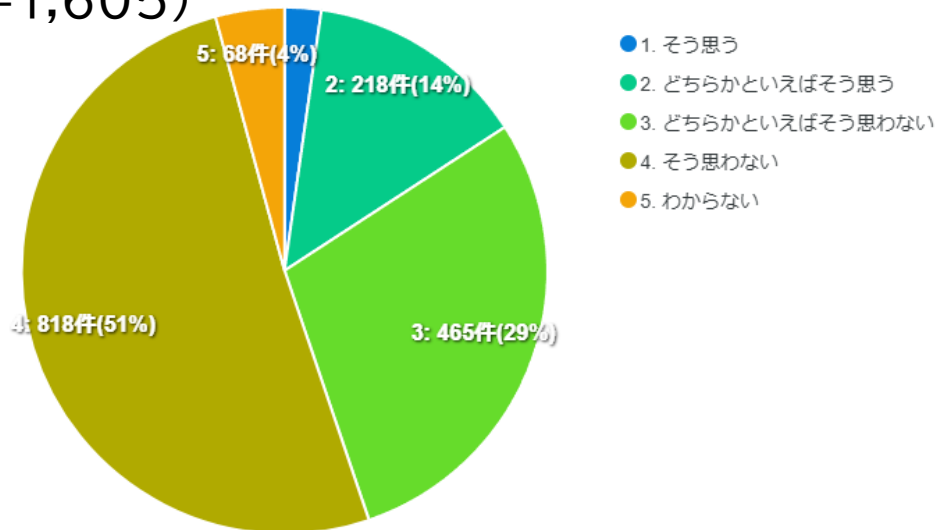
- 認知症について「よく理解している (n=200)」人ほど、「それまで好きだったことを楽しめなくなる」ことに対し、「**■ どちらかといえばそう思わない**」「**■ そう思わない**」と回答した人が多い。

問6（認知症の理解度）×問11（認知症になったら仲
間や知り合いと交流できなくなると思いますか）



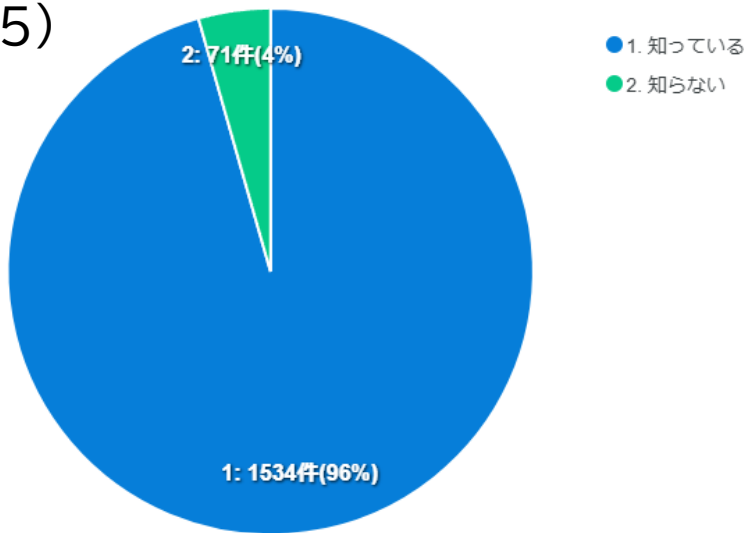
- 認知症について「よく理解している (n=200)」人ほど、「仲間や知り合いと交流ができなくなること」に対し、「**■ どちらかといえばそう思わない**」「**■ そう思わない**」と回答した人が多い。

問12 認知症の人はすぐ忘れてしまうので、丁寧に伝えたり、説明しても意味がないと思いますか。(n=1,605)



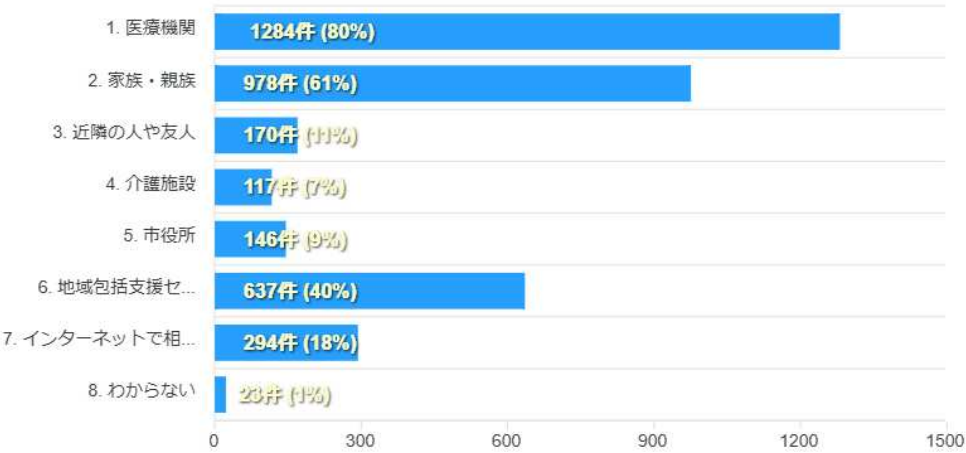
選択肢	回答数	割合
1. そう思う	36件	2%
2. どちらかといえば そう思う	218件	14%
3. どちらかといえば そう思わない	465件	29%
4. そう思わない	818件	51%
5. わからない	68件	4%

問13 40代や50代など高齢でない人でも認知症になる可能性があることを知っていますか。
(n=1,605)



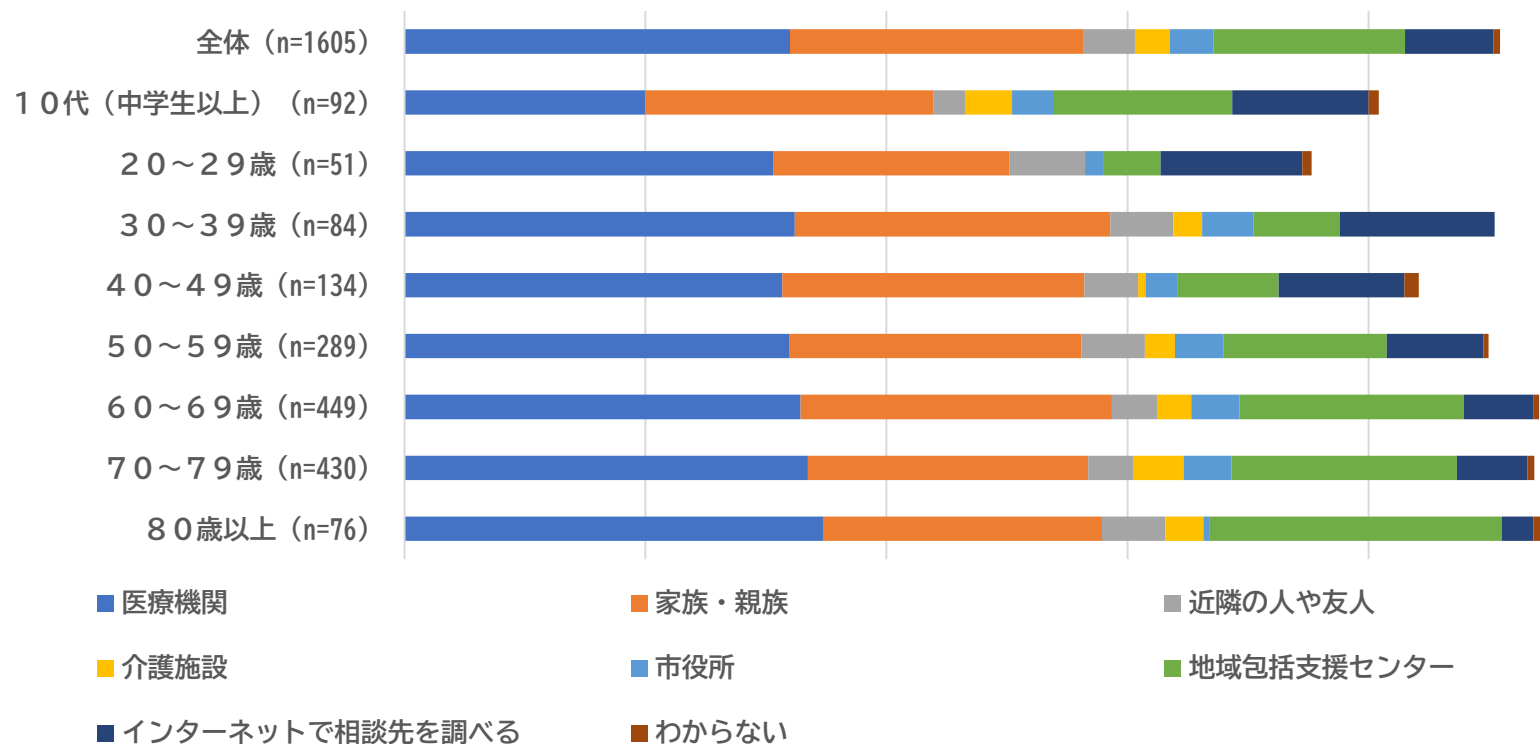
選択肢	回答数	割合
1.知っている	1,534件	96%
2.知らない	71件	4%

問14 ご自身や家族が「認知症ではないか」と不安を感じた時、まずどこに相談すると思いますか。(3つまで選択可)(n=1,605)



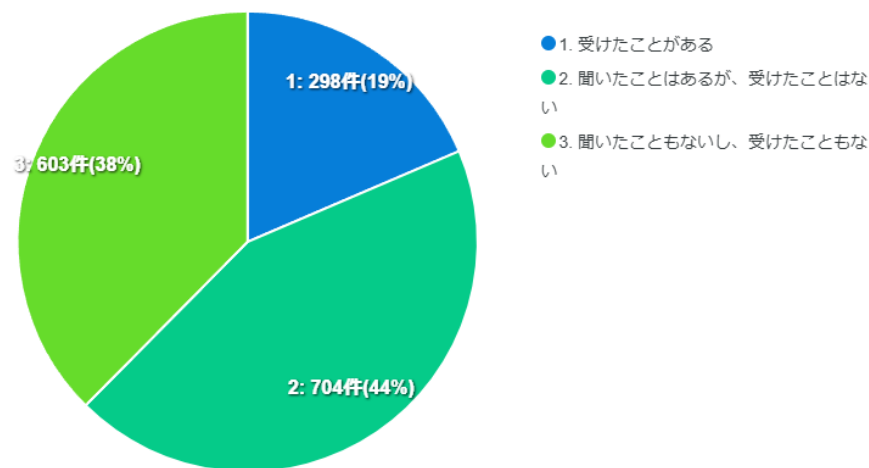
選択肢	回答数	割合
1. 医療機関	1,284件	80%
2. 家族・親族	978件	61%
3. 近所の人や友人	170件	11%
4. 介護施設	117件	7%
5. 市役所	146件	9%
6. 地域包括支援センター	637件	40%
7. インターネットで相談先を調べる	294件	18%
8. わからない	23件	1%

問2(年齢)×問14(自身や家族が「認知症ではないか」と不安を感じた時の相談先)



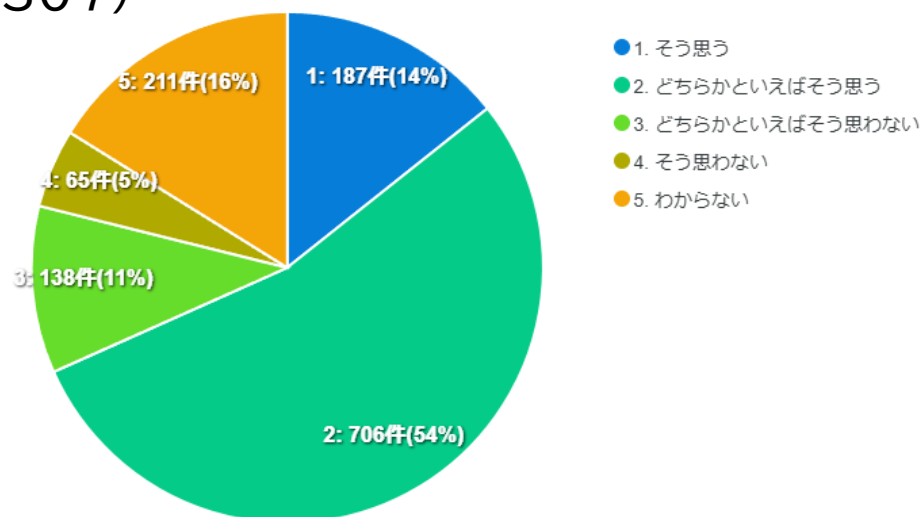
- どの年齢層も「医療機関」、「家族・親族」の割合が高い。
- 50代以降は、「地域包括支援センター」を選択している人の割合が高い。
- 10代から40代は、「インターネットで相談先を調べる」を選択している人が多い。

問15 認知症の正しい知識や接し方を学ぶことができる「認知症サポーター養成講座」を受講したことがありますか。(n=1,605)

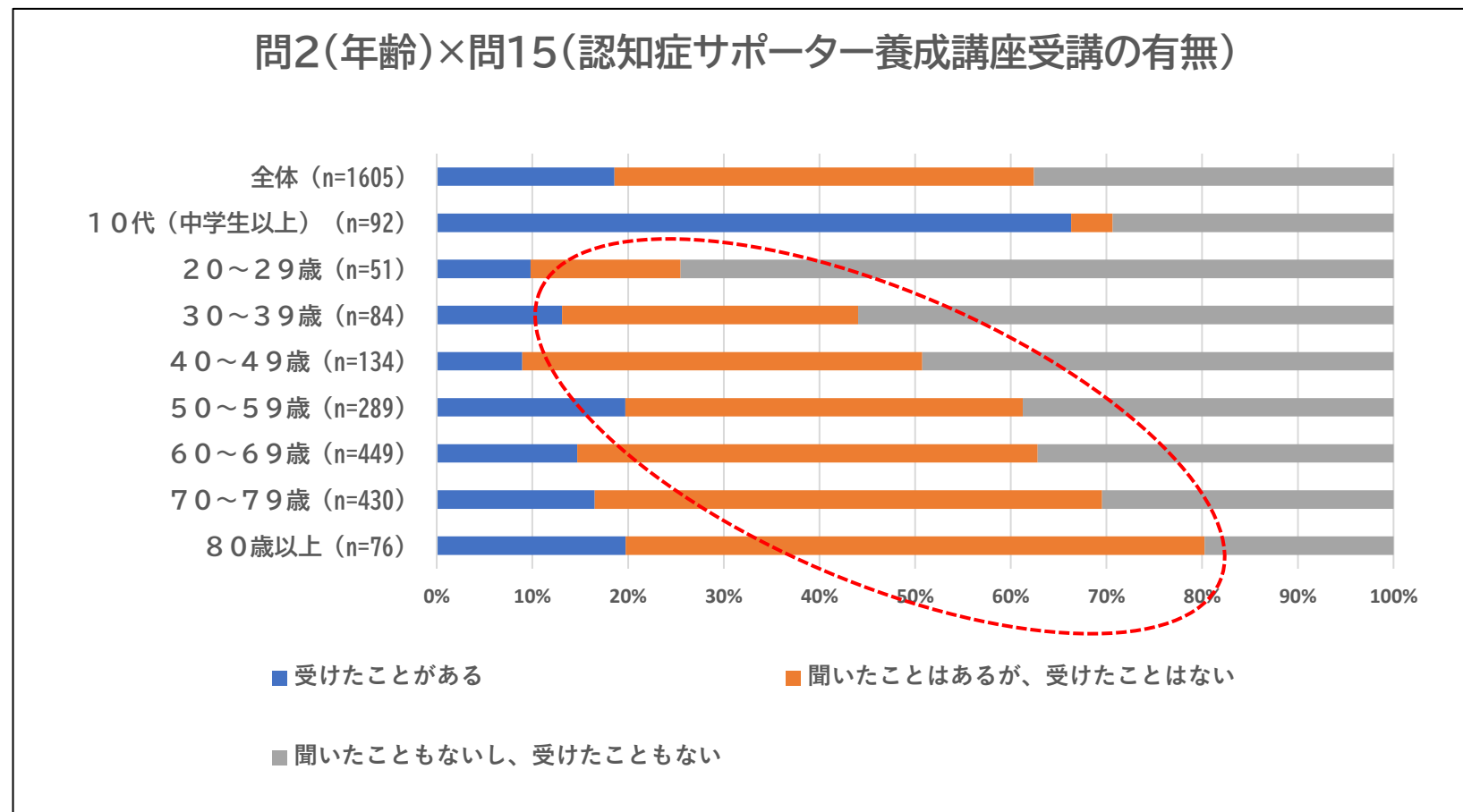


選択肢	回答数	割合
1. 受けたことがある	298件	19%
2. 聞いたことはあるが、受けたことはない	704件	44%
3. 聞いたこともないし、受けたこともない	603件	38%

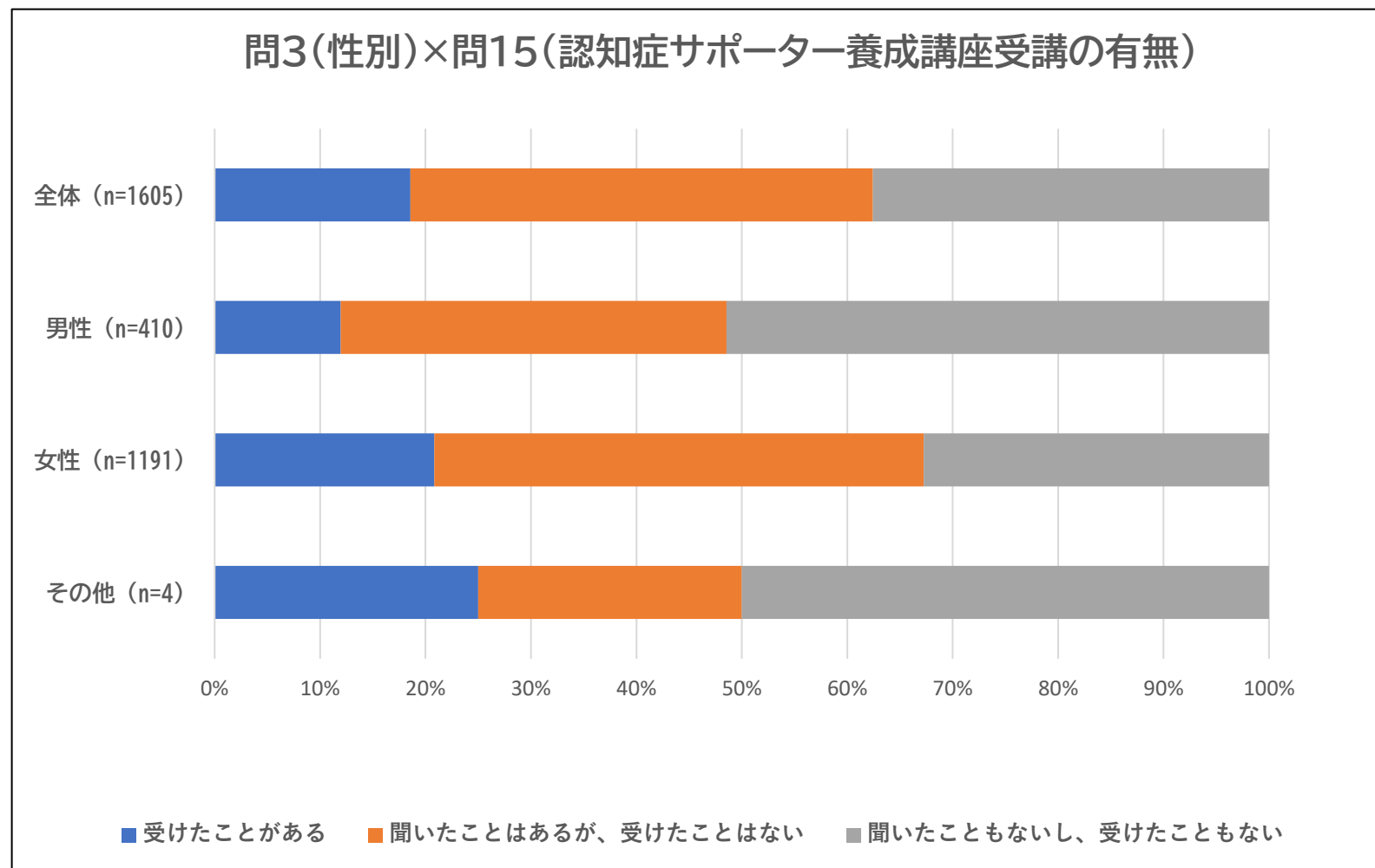
問16 認知症サポーター養成講座を受講し、認知症への知識や理解を深めたいと思いますか。(n=1,307)



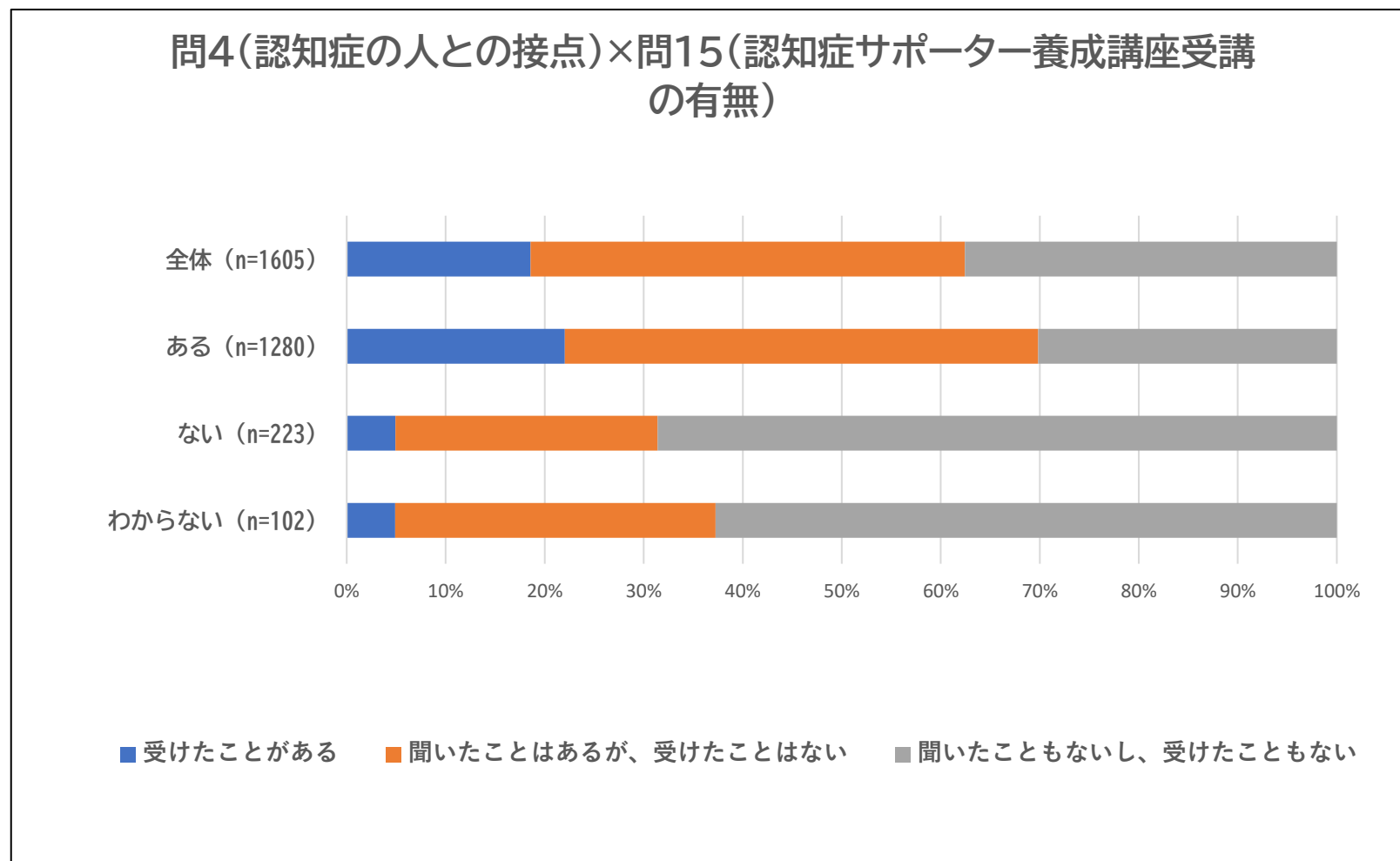
選択肢	回答数	割合
1. そう思う	187件	14%
2. どちらかといえばそう思う	706件	54%
3. どちらかといえばそう思わない	138件	11%
4. そう思わない	65件	5%
5. わからない	211件	16%



- 若年層(10代を除く)ほど、認知症サポーター養成講座を「■聞いたこともないし、受けたこともない」と回答する人の割合が高い。
- 年齢が上がるほど、認知症サポーター養成講座の認知度は高くなる。

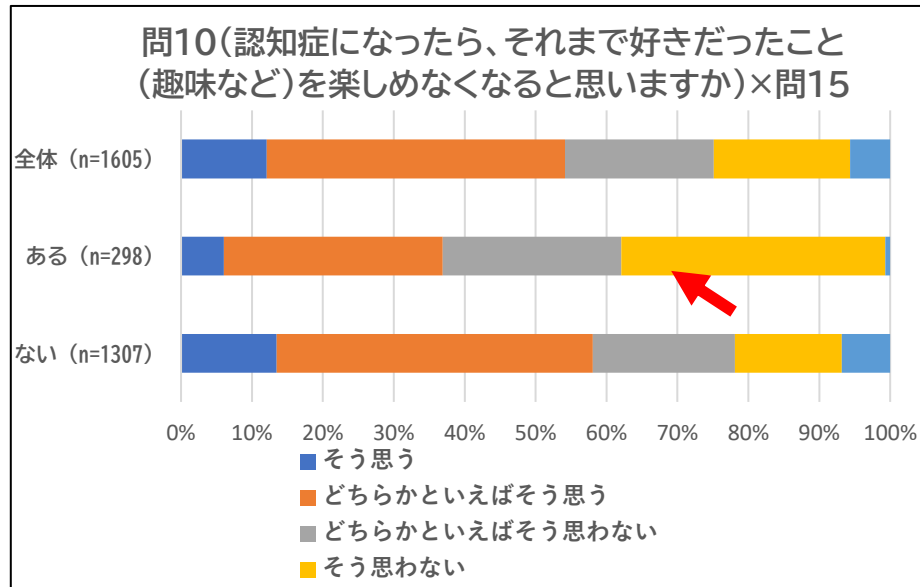


- 「女性(n=1191)」の方が「男性(n=410)」より、認知症サポーター養成講座を「■ 受けたことがある」、「■ 聞いたことはあるが、受けたことはない」の割合が高い。

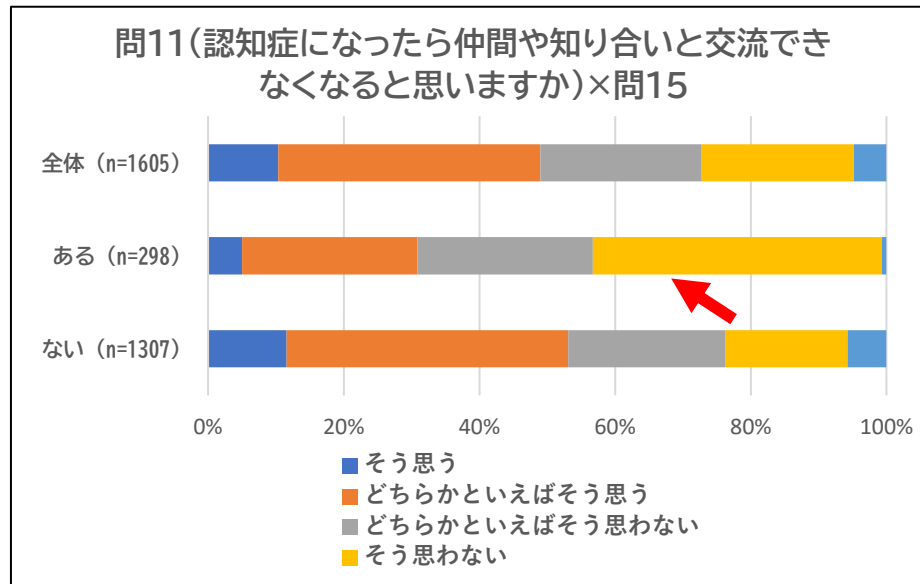


- 認知症の人と接したことが「ある(n=1280)」人ほど、認知症サポーター養成講座を「■ 受けたことがある」、「■ 聞いたことはあるが、受けたことはない」が多く、接したことが「ない(n=223)」人より認知度が高い。

クロス集計 問10、問11（認知症のイメージ）×問15（認知症サポーター養成講座受講の有無）

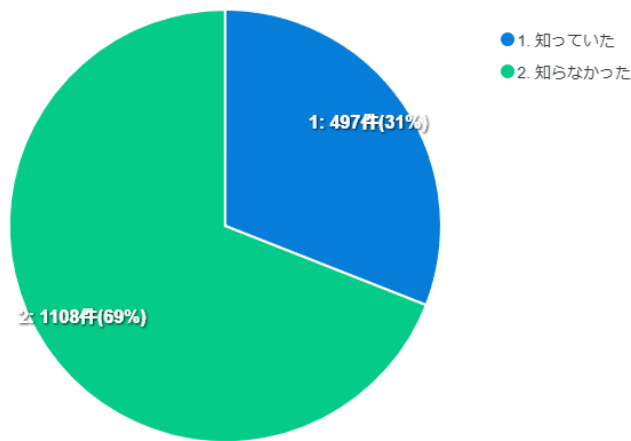


- 認知症サポーター養成講座を受講したことが「ある(n=1605)」人ほど、「それまで好きだったことを楽しめなくなる」ことに対し、「**■ どちらかといえばそう思わない**」「**■ そう思わない**」と回答した人が多い。



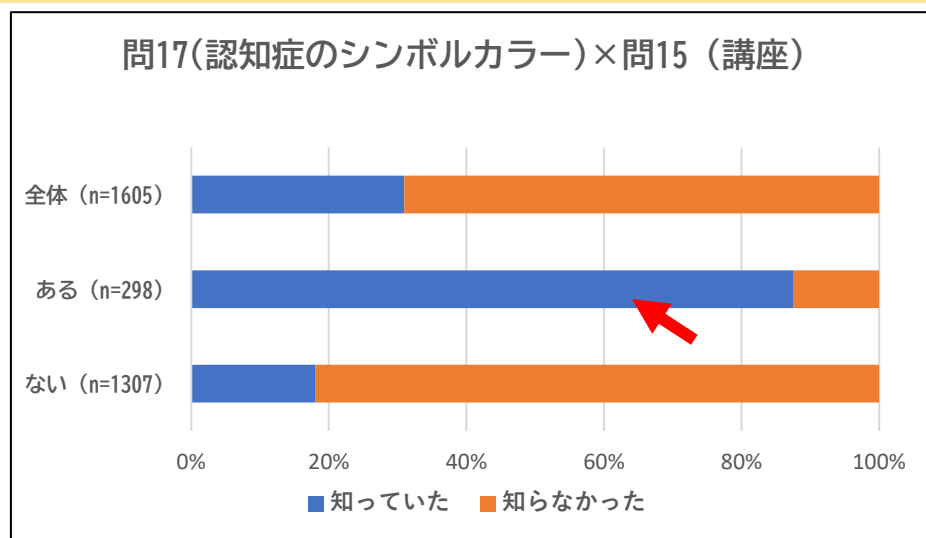
- 認知症サポーター養成講座を受講したことが「ある(n=1605)」人ほど、「仲間や知り合いと交流ができなくなる」ことに対し、「**■ どちらかといえばそう思わない**」「**■ そう思わない**」と回答した人が多い。

問17 認知症支援のシンボルカラーは、オレンジであることを知っていましたか。(n=1,605)



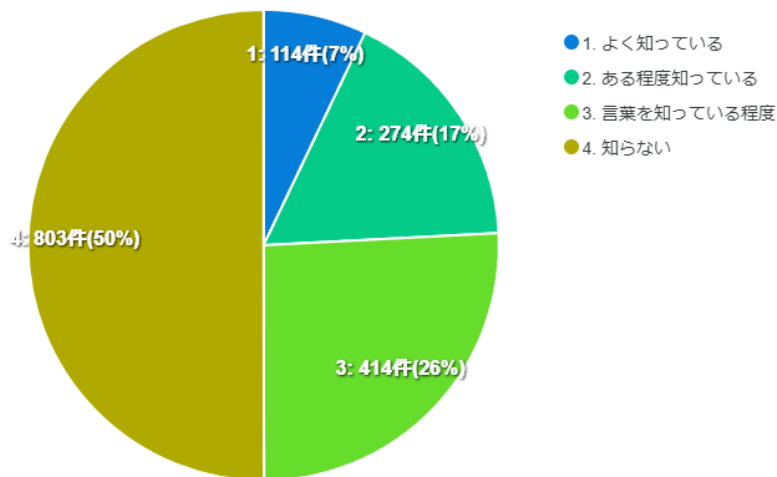
選択肢	回答数	割合
1. 知っていた	497件	31%
2. 知らなかった	1,108件	69%

クロス集計 問17（市の取組認知度）×問15（認知症サポーター養成講座受講の有無）



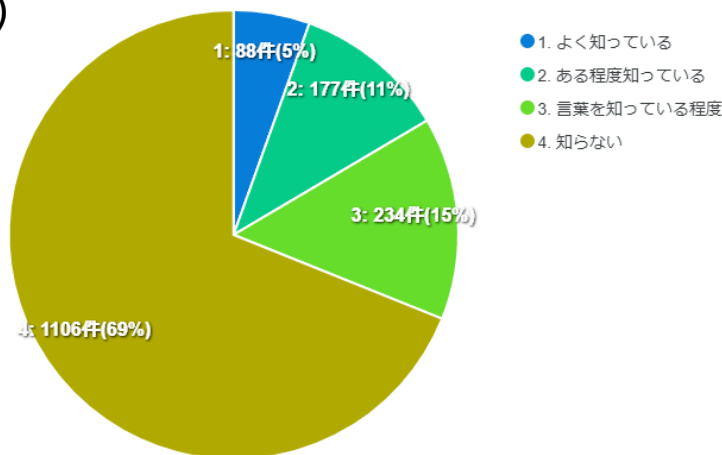
- 認知症サポーター養成講座を受講したことが「ある(n=1605)」人ほど、認知症のシンボルカラーを「■知っていた」割合が高い。

問18 認知症の人や家族、地域住民などが気軽に集まり、お茶などを飲みながら交流したり、情報交換や相談ができる場である「認知症カフェ」を知っていますか。(n=1,605)



選択肢	回答数	割合
1. よく知っている	114件	7%
2. ある程度知っている	274件	17%
3. 言葉を知っている程度	414件	26%
4. 知らない	803件	50%

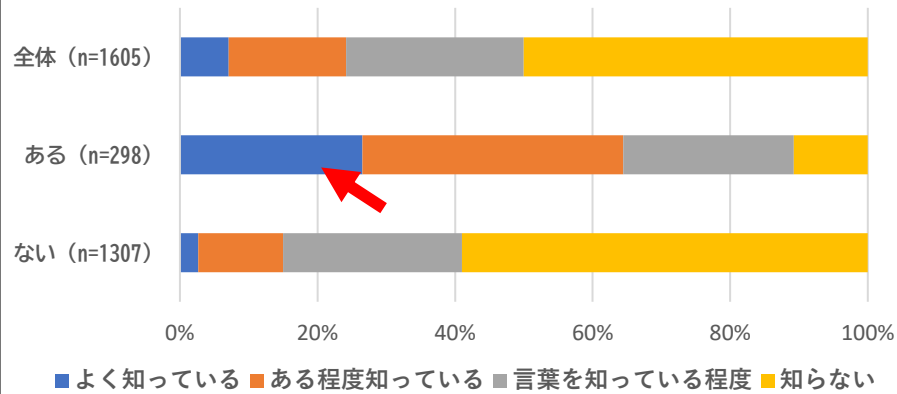
問19 認知症サポーター養成講座を受講した認知症サポーターがチームとなって、身近な認知症の人や家族の見守りや支援を行う「チームオレンジ」という取組を知っていますか。(n=1,605)



選択肢	回答数	割合
1. よく知っている	88件	5%
2. ある程度知っている	177件	11%
3. 言葉を知っている程度	234件	15%
4. 知らない	1,106件	69%

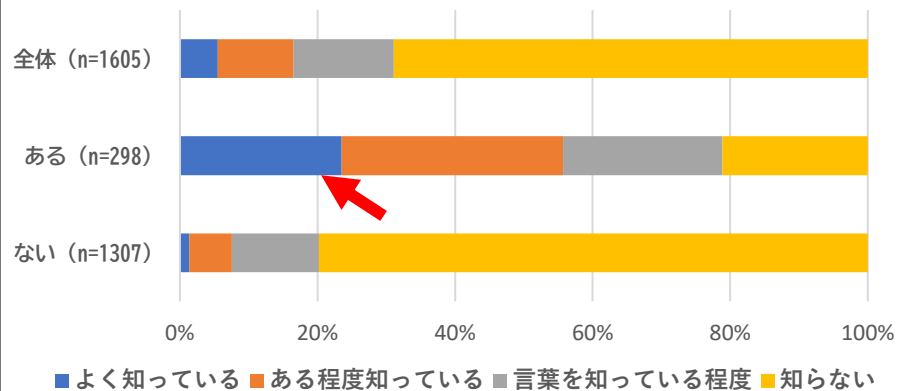
クロス集計 問17、18、19（市の取組認知度）×問15（認知症サポーター養成講座受講の有無）

問18(認知症カフェ)×問15（講座）



- 認知症サポーター養成講座を受講したことが「ある(n=1605)」人ほど、認知症カフェを、「■知っている」、「■ある程度知っている」割合が高い。

問19(チームオレンジ)×問15(講座)



- 認知症サポーター養成講座を受講したことが「ある(n=1605)」人ほど、チームオレンジを「■知っている」、「■ある程度知っている」割合が高い。